

雑 念

久保愛三 (S41/1966卒)

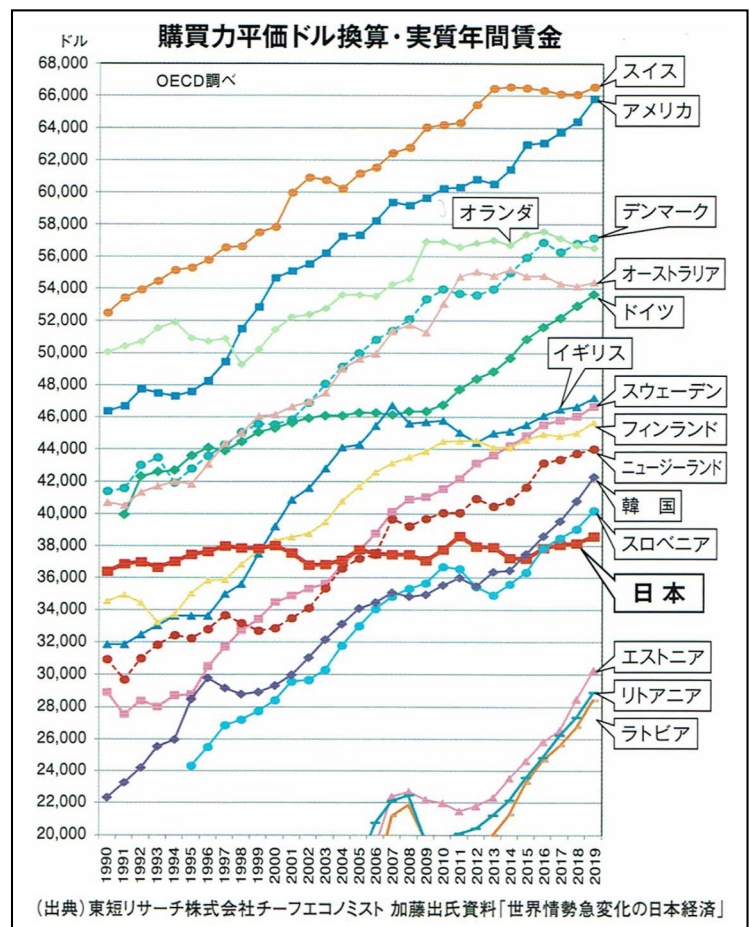
私は、太平洋戦争中に生まれ、戦後の混乱期に幼年を過ごし、一生懸命に働けば明日は必ず今日よりも良くなると信じて努力ができた時代を生きてきました。日本は、戦後50年で Japan as number one と言われる様になり、日本人はその経済的豊かさを満喫できるようになりました。しかし世界のトップに肉薄していた日本の科学技術がそれ以後、あっという間に三流国に凋落してしまいました。そして現在、新聞やテレビ、それから WWW を駆け巡る情報の量の増加と質の低下は目を覆うばかりです。

教育も形式の踏襲ばかりで、人の心を成長させ鍛えることや、師弟の関係や温故知新の有用さも評価されなくなりました。若い人は四六時中、携帯端末をいじくってばかりで情報のやり取りをし、その結果、人と会話ができない子が増え、人の心の動きが分かる本能が鍛えられません。また、挨拶ができない、「ありがとう」、「済みません」が言えない子が多くなって来ています。この子らが大人になっても、人とネゴが出来るようにはならないでしょうし、その結果、人が主役を演じる社会では重要な決定に参加できないことになってしまいます。すなわち、このような教育は一兵卒を作るためのもので、指揮官や参謀を作ることは出来ないものです。前の大戦後、日本を無毒化して役立てるために戦勝国が意図した日本改造計画の成果が見事に現れているのかも知れません。日本にはどこかの大国の番犬として役立つことが期待され、その線に沿って動く日本人が引き立てられて今の日本の構造が出来ました。そして今、日本人の大半はそのような結界の中に閉じ込められていることすら認識できず、その中の小さな平安と豊かさに満足しています。

近年の日本凋落の根本原因は、豊かになった日本の状態を単に維持するために、日本人全体が冒険を恐れ、超々保守的になってしまったことにあるような気がします。そして官僚的整合性、すなわち例えば研究開発においても、「成果をも詳述した計画書類でなければ裁可されず、そしてそれに完全に整合した成功報告を、たとえそれが似非であっても、しなければならぬ」という意識が無言のうちに支配的となりました。そしてマスコミがこれを後押し、また、責任回避に有用なこの方法が官僚のみならず研究者・教育者そして企業経営者をも洗脳してしまっ

たようです。未知のものに対する取組みは、その開始時において結論が分かっているはずはなく、解明しようとする対象の大局に向かって、作業の過程で得られてゆく情報を参照しながらその軌道を常に修正し、最大の成果を得ようとするものでなくてはならないはずですが、このような冗長性、軌道修正は現在許されないに等しくなっているようです。これは未知のものに対する物事の進め方の本道とは全く相反するような気がします。しかし日本人の大半は、現状の日本は未だに世界の技術大国であるのだと信じて、過ごしているようです。Japan as number one と言われていた豊かな時代の付けを払わされているのですね。

今、世界がこれから進むべき方向として、持続可能な社会を目指すと述べています。右のグラフは20世紀後半から21世紀前半までの各国の景気状況を示しています。世界の殆どすべての国で経済は inflating で、sustainable な社会を目指していないことは一目瞭然です。唯一の例外が日本です。日本が経済的に取り残されていることが認められます。しかし見方を変えれば日本は既にずっと以前から inflating 経済を卒業した社会を実現しているとみることも出来ます。ただと上に述べ



たように日本には、今、問題山積です。日本人は現在と近い将来の日本に幸せを本当に感じるのでしょうか。何が良いのか悪いのか、分かりません。現在の世界では、現象評価は全て数値に基づく判断しか認められません。しかし人間の全ての活動の motive force は広い意味での欲望の充足であり、その結果の判断は各々の人の脳内のデータベースとの対比によるものでしょう。これを数値化して物事の判断することは出来ないように思いますが、AI が進歩すればそうでなくなるかも知れません。また、すべての状況判断において、「人間をはじめとする動物の集団は、その1/3は善良なもの、その1/3は邪なもの、そして残りの1/3は日和見であ

る」ことが忘れられてしまっています。AI は将来、これらの状況まで犯してしまうのでしょうか。神の領域への侵犯と戦争布告ですね。

思い返えせば、私は、自動車をはじめとする輸送機械技術に革新が起こり、栄え、そして次第に凋落して行く動きと共に生きてきたようです。それはそれなりに、やりがいもあり、楽しんでこられたと感謝の気持ちでいっぱいです。

次の世代の人たちはどのような夢に向かって努力して行くのでしょうか。それが人を幸せにし、同時に日本の世界におけるプレゼンスを再び高めることの根本にあると感じます。